

す。また、100人のうち3人ぐらいしか知らないことも設問としては問題があります。これらの設問が悪質であるということができるとは思います。

では良質な設問とは、どのようなものなのでしょうか。簡単などころでは「悪質でないもの」でしょう。つまり、「ほとんどの子供がきちんと解くことができる設問」ということです。さらに良質なものは「解くときの手順において子供たちに考えることを要求している」ものです。

考えることを要求されたときに、私たちは何を根拠に考えることになるのでしょうか。考える根拠になるものが知識と言葉です。これらは教科での学習の中で身につけていくものです。良質な設問とは「解くときに、子供たちが知識と言葉を使ってしっかり考えることを要求する」ものです。しかし、このような設問が一般的には応用問題としてくぐられ、何か特殊なもののように扱われてしまっています。基礎的な知識と言葉をどう使うかということだけのことなのですが…

では、難しい設問とはどのような問題なのでしょうか。これは決して「解けない設問」ではないのです（「解けない設問」は悪問です）。難しい設問とは、重層的かつ横断的な考えを必要とする、つまり、いろいろなものを積み重ね、いろいろな部分から引っ張り込んで考えをまとめていく設問です。いろいろなものを積み重ね、いろいろな部分を引っ張り込んでいく段階が一般的には手間がかかるとされ、嫌われてしまいます。こういう設問こそ自分の力で、パズルを解いていくように、取り組んでいかないとはいけません。

さて、「横断的＝いろいろな部分から引っ張り込んでいく」ということを示しましたが、実はこれがこれからの入試問題にひょっこり利用されるようになってくるかと思えます。

(例題 1)

ケヤキの木は三階建ての建物と同じくらいの高さでした。このケヤキの木の高さを次の(ア)～(オ)から1つ選び、記号で答えなさい。

(ア) 3m (イ) 5m (ウ) 12m (エ) 20m (オ) 50m

<慶應普通部(中学校)・理科>

(例題 2)

日本では主に麻、絹、木綿が使われていましたが、日本以外の国ぐにでは毛織物も広く使われてきました。毛織物の原料は何の動物の毛を利用していますか。代表的な動物を1つあげなさい。

<武蔵中・社会>

とりあえず、中学入試からの事例となりましたが、いかがでしょうか。

(例題 1)は一見すると、「こんなの知らないよ」という問題、つまり悪質な問題となりそうですが、よく考えてみてください。皆さんの住んでいる家の部屋の出入り口の高さってなんとなくわかりませんか。家の中の出入り口の高さがそう高いはずがありません。そこから、一部屋分の高さが計算できないでしょうか。2.5mぐらいになりそうですね。そこから各階に存在する余分な空間を考えると大体1階あたり3m～4mぐらいとすれば、解答としては(ウ)というのは導き出せるのではないのでしょうか。

(例題 2)は「毛織物の原料」とあるところから、家庭科的な問題でしょう。「毛」というところから皆さんの衣類の毛といえばどのような動物が思い浮かびますか。「羊毛」ということで、「羊」が思い浮かぶのではないのでしょうか。

私国立中学入試、高校入試、大学入試でひょっこり「あれ、この教科の試験でこれ聞いちゃうの?」という問題が少しずつでも出てくるような予感がします。もちろん、学校で学習した内容ということからは逸脱することはできませんが、教科を横断した内容の設問が登場してくるでしょう。

入試問題の作成に携わった者として、「そもそもなぜ入学するために試験を行うのか」という問いに答えましょう。入試は選抜するため、言い換えれば入学してもいいという児童・生徒を選ぶためというだけで行っているものではありません。その学校に「こういう力がある子に来て欲しいな」という想いをこめて入試を行っているのです。つまり、入試問題というのは、落とすために行うのではなく、こういう問題が解ける子と一緒に学校生活を送りたいという願いを込めてつくられているものなのです。

ところで、新学習指導要領において、私たちは学習内容の増加や授業時間数の増加といったところに目がいきりますが、次のようなところも着目しておかなければならないでしょう。内容は是非は別にして、「総合学習の時間」の取り扱いに関しての基本的な考え方についてです。

総合的な学習の時間については、その課題を踏まえ、基礎的・基本的な知識・技能の定着やこれらを活用する学習活動は、教科で行うことを前提に、体験的な学習に配慮しつつ、教科等の枠を超えた横断的・総合的な学習、探究的な活動となるよう充実を図る。このような学習活動は、子どもたちの思考力・判断力・表現力等をはぐくむとともに、各教科における基礎的・基本的な知識・技能の習得にも資するなど教科と一体となって子どもたちの力を伸ばすものである。(下線は筆者)

(「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善について(答申)」より)

教科を横断して、課題を解決していく力を養っていくことは実は時代が求める力なのです。となると、入学試験においても、「あなたにはそのような力がありますか?」と問いたくなるでしょう。各教科での専門的な学習を基礎として、そこから幅を広げていける力を問う問題は少しずつ増えてくることと予想できます。

またまた、長い文章になってしまいました。最後まで読んでくださいますと、ありがとうございます。小春学院を運営していくにあたっていつも考えていることは、「10年後、20年後、必ず通用する力、考え方が本物の力であり、その本物とは何か、どのように本物の力を養っていくことができるか」ということです。実はそのための取り組みが、大学見学ツアーであったり、映画鑑賞会であったり、帝国ホテルでの中学3年生の卒業お食事会(2012年3月某日のブログ「こはるの伝言板」を参照)であったりするのです。小春学院に通ってきてもらっている児童・生徒のみなさんには「できる大人、わかる大人」になってもらいたい。そんな想いが日に日に強くなっております。

文責：めがね先生

★☆☆★☆☆★☆☆★☆☆★8月のおめでとう★☆☆★☆☆★☆☆★☆☆★
1年1年の成長を自分は分からなくても人は見えています。お誕生日おめでとうございます。

☆大知くん ☆裕介くん

お誕生日は子育てをしてくださるお父さん、お母さんへ感謝する日でもあります。お子さんの成長を喜ぶとともに、感謝申し上げます。

★☆☆8月の予定☆☆★

①「夏の講座」が7月26日(木)からスタートしました!

現在「夏の講座」実施中です。今年のスローガンは「あと10点を狙う」です。どんな問題にも粘り強く取り組む姿勢を養い、どの教科もあと10点ずつ伸ばしていきましょう。学カテストも実施しますので、そこで力だめしをしていきましょう。

②中学生学カテスト

今月は3教科受験となります。範囲は別紙にてご確認ください。今月の学カテスト受験最終日は8月25日(土)です。範囲表を確認してしっかり学習してきましょう。(今月は英語・数学の2教科です。)

③小学生学カテスト

8月31日(金)までに学カテストの受験をお願いいたします。別紙「学カテストのお知らせ」と事前課題教材、「夏の講座」で学習したことをよく確認してテストに望むようにしましょう。

④中学3年生北辰テスト

9月2日(日)は中学3年生の北辰テスト[第4回]の実施日です。十分に勉強してテストに臨みましょう。北辰テスト[第5回]は10月7日(日)です。受付は9月6日(木)~17日(月)です。ぜひテストを活用して、勉強の指針にしていきましょう。

★☆☆今月の「この一問!」☆☆★

今月は社会の問題です。チャレンジしてみてください。答えは教室で!

(問題)次の人物の出身地(都道府県)を答えましょう。

1. 湯川秀樹：中間子を発見し、1949年に物理学で日本人初のノーベル賞を受賞した物理学者。
2. 松下幸之助：パナソニック(旧社名：松下電器産業、松下電器製作所、松下電気器具製作所)の創立者。
3. 前島密：日本の郵便制度を確立した政治家。「郵便」「切手」「はがき」という名称を定めた。
4. 豊田佐吉：自動車メーカーのトヨタグループの創業者。
5. 岩波茂雄：岩波書店創業者。岩波文庫、岩波新書などを発刊。
6. 司馬遼太郎：「竜馬がゆく」「坂の上の雲」などを著した作家。
7. 川口淳一郎：宇宙工学者。小惑星探査機「はやぶさ」プロジェクトマネージャー。
8. 石川啄木：明治時代の歌人、詩人。代表作に「一握の砂」がある。

※歴史上の人物の出身地という角度から歴史に対して興味を持つものなかなか面白いものです。ぜひ、インターネットなどを活用していろいろ調べてみてください。

★★大人のための「この一冊！」★★

赤木かの子「お父さんが教える読書感想文の書きかた」(自由国民社 2009年)

この時期になると毎年のように、読書感想文でワチャワチャするお子さんを目にします。何をそんなにワチャワチャしているのかと思うと、その内容には2種類あります。

1つは何を読んだらいいのかわからない。2つ目は何を、どのように書いていいのかわからない。これら2つのことが原因となって、読書感想文へのモチベーションが低下してしまうのでしょうか。そんな様子を毎年のようにみていましたので、何かいいものはないかと思いながら、出先の千葉県津田沼駅の書店に立ち寄ると、本書がこの時期になると書店に設置される読書感想文コーナーに平積みで置かれていました。

なぜこの本を手にとったか…。お恥ずかしい話ですが、それは「本が薄くて、文字が大きかった」からです。まあ、本書にも本の選び方について「最後まで読める本」とあるので、これでよしとしましょう。

さて、中身ですが、「あ～、なるほど」と思うことばかりでした。いろいろ読書感想文の書き方という書物には目を通してみましたが、いまひとつ「これで教えてみよう」というものには出会いませんでしたが、「これは使える」という読書感想文の書き方がいくつかありました。これなら原稿用紙10枚ぐらいすぐにいける！と確信できました。

紙面の都合により、引用は控えますが、あえてここがポイントというところを書くとき「原稿用紙をじょうずに使って、あらずじと感想を組み合わせて書く」というところでしょう。薄い本ですので、ぜひお手にとってご覧頂きたいと思います。

下記に今回小春学院で購入した書籍一覧を示しましたので、お子様にお声がけしていただければと思います。

★小春学院購入書籍一覧★

小春学院の児童・生徒向けの書籍をこの度購入いたしました。お子様にも推薦していきます。

① もりやまみやこ「またおいで」(あかね書房)

…2012年青少年読書感想文全国コンクール課題図書(小学校低学年の部)

② なかがわちひろ「カモのきょうだい クリとゴマ」(アリス館)

…2012年青少年読書感想文全国コンクール課題図書(小学校中学年の部)

③ グザヴィエ＝ローラン・プティ(著)、浜辺貴絵(訳)「走れ！マスワラ」(PHP)

…2012年青少年読書感想文全国コンクール課題図書(小学校高学年の部)

④ 岡田潤「こども電車」(金の星社)

…2011年青少年読書感想文全国コンクール課題図書(小学校高学年の部)

⑤ 大木聖子「地球の声に耳をすませて 地震の正体を知り、命を守る」(くもん出版)

…2012年青少年読書感想文全国コンクール課題図書(中学校の部)

【編集後記】

予告どおり、別件の仕事が7月末ぎりぎりまでかかった都合により、発行が遅れてしまいました。もう少し早く作れるかなと思っていましたが大きな誤算が発生してしまいました。

人間というのは、年齢を重ねていくにつれて、動きが遅くなってしまいます(というのは私だけかもしれませんが…)。しかし、その一方で、心穏やかになる機会も増えてくるものです。仕事をはじめて間もない頃のあの角のたったところも、ずいぶんなくなってきたものだと自分ながらに感じております。まあ、発行が遅れたことの言い訳にはまったくなりません。

こんなIDOBATA会議も来月で創刊1周年をおかえることになります。3ヶ月で消えると言われていましたこのお便りもとりあえず12ヶ月頑張ったということで、今回の発行の遅れをお許しください。

最後になりますが、皆様からのご意見、ご批判、ご提案、応援メッセージを募集しております。下記の空欄に遠慮なくお書きください。(12ヶ月このコーナーを設けましたが、残念ながらお返事を頂けませんでした…。ショック…。)